

# 下越美術教育研究会 会報

春季号

令和7年3月10日

下越美術教育研究会

事務局  
新潟大学附属新潟中学校

<http://kabiken.org>

印刷 ハイングラフ

## 子どもの語りが聞こえる場



下越美術教育研究会  
副会長

吉田直彦

(阿賀野市立安田小学校校長)

## 楽しく進んで主体的に



下越美術教育研究会  
副会長

大矢隆

(新潟市立有明台小学校校長)

今年度新潟教育アート展が20年目を迎えました。皆さんのご支援をいただき長きに渡り実施することができ、たくさん子どもたちが作品に触れてこられたことに感謝いたします。展覧会に集まった作品は、子どもの生きている輝きの痕跡であり、子どもの思いが詰め込まれたものです。新潟美術館の展示室を埋めつくす1200点余りの作品は圧巻です。近づいて見たり離れて見たりしていると、子どもが語りかけてきます。「楽しいよ」「嬉しかったよ」「きれいでしょ」「おもしろいでしょ」など作品の数だけ声が聞こえてきます。また、先生方の子どもに寄り添う姿も伝わり、微笑ましく思います。下越美術教育研究会は、今後も先生方に研修の場を提供していきたいと考えています。また、子どもの語りが聞ける場として、新潟教育アート展を引き続き開催していきたいと思えます。今後も皆様のご支援をいただければ幸いです。

タイトルは、図画工作科の低・中・高学年で目指す「学びに向かう力・人間性等」のキーワードです。図工の授業に限らず、私たちは常にこのような子どもの姿を指しているのではないのでしょうか。私は、まさに自校でこのような場面を目の当たりにし、その感動を残したいと思ひ、絵に表しました。



【ウェルカムプロジェクト】  
有明台小学校では、スタートカリキュラムの一環として、六年生が企画する「ウェルカムプロジェクト」を実施しています。活動の一つとして、一年生は登校後、六年生とともに絵を描いたり、折り紙を折ったり、絵本を読んだりします。この取組により、一年生の学校生活のスタートが楽しく、温かい時間となっています。

## 子どものまなざしから見える感性

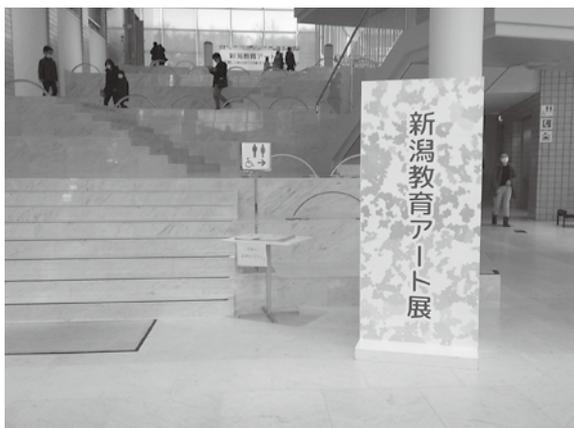


下越美術教育研究会  
副会長

佐久間 郁子

(新潟市立山田小学校校長)

休憩時間、子どもたちがどのように過ごしているのかと校舎内を歩いていると、図画工作の時間につくった人形をブックトラックのAーム部分に乗せようとしている一年生と出会いました。「上手につくれたね。」と話し掛けると、「うん。今、滑っているところ。」と答えました。私は、滑っているところ？と思いつつよく見ると、その子はAーム部分を滑り台に見立てていることが分かりました。その感性の豊かさに、ハッとさせられました。新潟教育アート展で入賞し、新潟美術館に展示された作品を含む出品された約15000点の作品一枚一枚にも、その子ならではの感性が表現されています。何色で塗ろうかなとか、これを貼り付けるとどうなるかなと試行錯誤しながら作品づくりをした姿が想像できます。まさにAームを滑り台に見立てて人形を置くとどうなるかなと試していたように。作品づくりの過程でこうしたまなざしを価値付けて、子どもの感性をより豊かにすることができたらと思います。



第20回新潟教育アート展  
令和7年1月4日(土)～11日(土)  
新潟市新潟美術館



第20回新潟教育アート展へのご協力ありがとうございました



下越美術教育研究会  
新潟教育アート展事務局長  
大矢 奎 哉  
(新潟市立木崎小学校)

令和7年1月4日から11日まで、新潟市美術館を会場に、第20回新潟教育アート展を開催いたしました。会期中は約5000人が来場し、盛況のうちに終わることができました。今年度は、222校の学校園より、14000点を超える作品を応募していただきました。皆様のおかげで、教育アート展が地域に根付いた展覧会として開催できることに感謝申し上げます。

展覧会では、自分の作品を家族に紹介したり、作品をじっくりと見ながら表現の工夫を探したりするなど、鑑賞を楽しむ姿がたくさん見られました。

最後に、第20回新潟教育アート展を無事に終えることができましたのは、皆様のご協力があったからこそです。展覧会に携わっていただいた全ての方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

# 第65回夏季実技研修会

## 令和6年8月6日(火) 新潟市天寿園

### 講師 大嶋 彰 様

(滋賀大学名誉教授)



### 夏季実技研修会について



研修部 副部長  
山川みづえ  
(新潟市立上山中学校)

夏季実技研修会では、滋賀大学名誉教授 大嶋 彰様をお招きし「造形遊びの本質について」造形表現についてみなさんと再考してみませんか?というテーマで実技研修会を行いました。『ピカソの水に沈めて!』という先生の思いがけない言葉に既成概念を離れて夢中で制作に没入しました。講演では造形表現は頭で考えるのではなく身体での体験が大切というお話を聞き、その本質について改めて考え、多くの気付きを得ることができました。

### 参加者の声

アンケートより

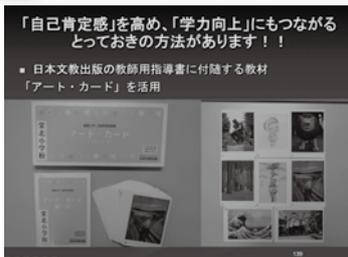
・実技も楽しく、かつ参考になる内容だった。講演内容も、少し難しかったが、アートの真髄に迫るテーマで大変勉強になった。  
・自分を無意識に縛るものを、ちよつとした工夫で打ち砕く体験はなかなかできるものではないので、びっくりした。  
・現在の我が国を憂う視点も併せて、図画工作・美術教育の大切さを考えさせられる内容であった。

# 冬季オンライン研修会

## 令和7年2月15日(土)

### 講師 青木善治 様

(滋賀大学教職大学院 教授・博士)



### 冬季オンライン研修会について



研修部長  
飯吉阿佐美  
(新潟市立月潟小学校)

冬季オンライン研修会では、滋賀大学教職大学院教授の青木善治様より「子どもの自己肯定感をはぐくみ、主体的・対話的で深い学び、学力向上にもつながる対話型鑑賞(朝鑑賞)」アートカードの活用を通して」と題して講演いただきました。教師がファシリテーターとして子どもの思考を促す朝鑑賞を実際に体験し、その面白さや可能性に現場で実施したいと心が高なる研修となりました。下美研ホームページで資料を掲載しています。是非ご覧ください。

### 参加者の声

吉井 彰 宏

(新潟市立牡丹山小学校)

図画工作科は正解はなく、自分が表現したこと、感じたことが正解になるということに感銘を受けました。朝鑑賞では、作品を見て情景を想像させ、自分なりの根拠を持って作品の表す時間帯やタイトルなどを考えさせるところに価値があり、その活動が自己肯定感の育成に役立つことが学べました。さっそく実践をしたいと思いません。ありがとうございました。

第35回新潟県美術連盟教育研究大会「造形五・十の市」  
8月5日(月) 見附市文化ホールアルカディア

つながる！鑑賞活動



長谷川 美鈴  
(新潟市立女池小学校)

令和6年8月5日に、第35回新潟県美術教育連盟教育大会「造形五・十の市」に参加し、iPadを活用した鑑賞活動の実践について発表をしました。今年度の大会研究テーマである「TSUNAGU」を基に、作品や他者によりよくつながれるような授業づくりを目指しました。交流のためのツールである「言葉カード」を使いながら楽しくうに友達と交流する姿や、iPadの拡大機能を使いながらじっくりと絵画鑑賞に浸る子どもたちの姿が印象に残っています。



経験を生かして学びをつなぐ子ども



横山 拓貴  
(村上市立村上小学校)

子どもが何かをつくりたい、もっと工夫したいなどと考えてつくり続けるためにはエネルギーが必要です。そのエネルギーを生み出すためには、子ども自身が学びの文脈をつくっていくことが大切です。今回の実践では、まず、生活科の町探検でつながった人たちから、様々な廃材をいただきました。そして、身近なまちで集めた廃材で道具をつくり、つくった道具で自由に表現しました。ブラシやローラー、スタンプなど、自分だけの道具でどんな形を生み出せるのか。今までの経験を生かして学びをつなぎ、自分の目的を追求する子どもの姿を紹介しました。



令和6年度 決算報告

Table with financial data for the fiscal year 2024. It includes sections for income (169,233 yen), expenses (144,091 yen), and a summary of the budget surplus (25,142 yen). The table lists various items like contributions, salaries, and printing costs.

令和6年度 下越美術教育研究会 事業報告

Table of activities for the fiscal year 2024. It lists dates, content of events (such as council meetings, exhibitions, and seminars), and the locations where they took place.

●●● 編集後記 ●●●

会報「春季号」をお届けいたします。今年度も、教育アート展の開催や、夏季実技研修会と冬季オンライン研修会を行うことができました。今年度の活動へのご協力、感謝申し上げます。

